

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531123

研究課題名(和文) 日本およびフランスの高等教育改革に関する学際的比較研究

研究課題名(英文) Interdisciplinary comparative study on higher education reform in Japan and France

研究代表者

白鳥 義彦 (SHIRATORI, Yoshihiko)

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：20319213

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)： 研究課題として設定した、「大衆化」と「卓越化」との二律背反の相克、高等教育の「自由化」政策の影響、リベラル・アーツと教養教育、という3つのテーマを軸に日仏両国の比較研究を進めた。日本およびフランスのいずれの国においても、さまざまな「改革」の動きの一方で、ともすれば見過ごされているようにも見受けられるのは、「改革」を通じてどのような高等教育を目指すのか、あるいはまた、その新たな高等教育を通じてどのような社会を目指すのか、といった本質的、理念的な問いである。研究代表者および研究分担者は、こうした根本的な問いを共有しながら、それぞれの具体的な研究テーマに取り組んで研究を進めた。

研究成果の概要(英文)： We have been doing comparative research between Japan and France on three main themes which we have posed as our point of study: 1) resolution of dichotomy between "tendency to mass" and "pursuit of excellence" of higher education, 2) impacts of the "liberalization" policy of higher education, 3) significance of liberal arts and general education. We have found that the essential and principal questions on the higher education reform -- what kind of higher education, or more generally, what kind of society is aimed for by the reform -- have not been discussed and reflected enough in both countries. We have inquired into actual research themes by setting this fundamental problem as the common basis for our study.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：高等教育 日本 フランス 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

日本とフランスの高等教育は同じような問題を抱えるに至っている。両国の高等教育がともに直面しているのは、「大衆化」と「卓越化」という二律背反的な課題に同時に対処することが求められるという状況であり、さらに、高等教育において進行しつつある「グローバル化」の中で、それぞれの国のナショナルな歴史や伝統を無視して行われる「世界の大学ランキング」等に翻弄される様相も見られる。そうした状況の中、「事前統制から事後評価へ」という言葉に象徴的に示されるような自由化を推進する方向性が政策として進められ、各国、また各大学は、競争的な環境にますます置かれつつある。従来は「象牙の塔」という言葉に象徴されるように、ともすれば俗世間から一定の距離を置いて大学が研究、教育を行うことも可能であったかもしれないが、そうした状況を過去のものとする、職業教育への志向を求める動きや、産学連携といった声の高まりなども、近年の大学の変容を示すものとして看過することはできない。

日本に限らず各国は、新たな高等教育のあり方を求め、改革を進めてきている。日本においては国立大学の法人化や機関評価の義務化がなされ、またフランスにおいても大学入学後の3年、5年、8年を標準的な年限として、学士号(licence)、修士号(master)、博士号(doctrat)の取得を目指すLMD制度の導入や、従来の全国評価委員会(CNE)に代わる評価機関としての研究・高等教育評価機関(AERES)の導入等に示されるような大きな変革の動きが見られる。

本研究では、こうした、高等教育をめぐる近年の大きな変化を踏まえ、そこで進められている諸改革について、あらためてその意味やそこに含まれる諸問題を検討していくことを目指す。高等教育や研究体制が時代に即して改革を進めていくことは確かに必要であろうが、同時に、それらの真にあるべき姿を求めていくこともまた必要である。本研究では、こうした大きな枠組みを念頭に置きながら、具体的な諸問題に関する考究を進めていく。両国の高等教育の歴史を踏まえながら、1990年代以降の改革がどのような変化をそれぞれの高等教育システムにもたらしているかを分析し、そこから21世紀の大学へのより確かな展望を拓きたい。

2. 研究の目的

1990年代以降の日本とフランスにおける高等教育改革を、それぞれのシステムの歴史と構造を踏まえながら比較する。今日の高等教育の普遍的な困難さは様々な次元において見出すことが可能であるが、本研究ではそうした諸困難とそれへの対応の諸相を具体的に明らかにするために、研究を進めていく主たる軸として、「大衆化」と「卓越化」との二律背反の相克、高等教育の「自由化」

政策の影響、リベラル・アーツと教養教育、の3つを設定する。こうした考察を踏まえて、近年の大学改革の論理とそこから生じ得る諸問題とを明らかにし、さらには単なる状況把握に留まることなく、高等教育の本質的な意味をあらためて問い直すことを目指す。

3. 研究の方法

上記のように研究課題として設定した、「大衆化」と「卓越化」との二律背反の相克、高等教育の「自由化」政策の影響、リベラル・アーツと教養教育、という3つのテーマを軸に日本およびフランスについて比較研究を進める。に関しては、デリダ、ブルデュー、シャルルなどの大学論の検討を踏まえ、これらを対照軸としながら今日的様相の特徴を明らかにする。に関しては、政策的な展開を明らかにした上で、現実に表れる諸問題を具体的に検討する。に関しては、リベラル・アーツのあり方を、大学の歴史、教養教育、職業教育との関連のなかで考察する。いずれのテーマについても、文献に基づく研究とともに、フランスのアレゼールとの議論や、日本およびフランスの大学人や教育行政担当者との対話等を通じて、「制度」のレベルにとどまらない「実態」のレベルでの解明を行う。

4. 研究成果

研究開始当初の背景、研究の目的、研究の方法として示される諸点を基本に置きながら、本研究課題に3年間取り組んできた。この間に、論文、学会発表、図書等の形で公表された研究成果は、下記に示されている通りである。

日本においては、フランスの高等教育についての研究は、英米諸国に関する研究と比べて、いまだ十分に進められているとは言い難い側面がある。そうした全般的状況の中で、本研究課題によって、近年の改革動向を中心として、フランスの高等教育について多角的に研究を進めることができたことは重要な成果である。本研究を通じて、大学ランキング等に象徴されるような、国際的な競争的環境の中で、英語圏の国や地域に対して日本もフランスも周辺的な位置に置かれているという基本的な状況、そうした状況に対して、両国ともに高等教育や研究の成果を高めるために様々な改革を進めようとしてきていること、職業教育を重視しようとする全般的な傾向といった、日仏両国に共通する側面として指摘することの可能な諸点と、同時にその一方で、国と大学との関係のあり方や、「抵抗」をも含む改革の具体的な進められ方といった、両国の相違点として指摘され得る諸点とを明らかにすることができた。

また、研究の一環として、2011年度にはフランスから3名の研究者を、そして2012年度には、1名の研究者をフランスから招聘して、各年度ともに東京および神戸でシンポジ

ウムや講演会を開催し、さらに 2013 年度には、研究代表者および研究分担者のうち 3 名がフランスに赴いてトゥールーズおよびパリで開催されたシンポジウムに参加して、研究報告を行った。これらの研究成果、諸報告の主な内容は論文等としてすでに公刊してきているところであり、上記 3 名が 2013 年度にフランスで行った報告の内容についても、他の参加者による報告と合わせ、フランスでの出版の企画が進められていて、完成原稿をすでに 3 名とも提出している (Syllepse 社より、*L'université à l'encan* [仮題]として刊行予定)。本研究課題を通じて、日仏両国の研究者が双方向的な研究交流を行い、両国の高等教育の置かれている状況についての理解をお互いに深めることができたのも、重要な成果である。

本研究課題について、3 年間研究を進めてきたわけだが、この間、日本およびフランスのいずれの国においても、さまざまな「改革」の動きの一方で、ともすれば見過ごされているようにも見受けられるのは、「改革」を通じてどのような高等教育を目指すのか、あるいはまた、その新たな高等教育を通じてどのような社会を目指すのか、といった本質的、理念的な問いである。研究代表者および研究分担者は、こうした根本的な問いを共有しながら、それぞれの具体的な研究テーマに取り組んで研究を進めてきた。

日本における「大学改革実行プラン」(2012 年 6 月 5 日公表)や「国立大学改革プラン」(2013 年 11 月 26 日公表)、フランスにおける 2006 年 4 月 18 日の法律による「研究・高等教育拠点 (pôle de recherche et d'enseignement supérieur, PRES)」や、そのさらなる展開としての 2013 年 7 月 22 日の法律による「大学・機関共同体 (communauté d'universités et établissements, COMUE)」の制度の導入等、日本においてもフランスにおいても高等教育をめぐってさまざまな新たな動きがごく最近にも見出される。そうした状況のなかで、ここで得られた研究成果を踏まえながら、高等教育のあるべき姿や、高等教育の果たすべき役割、あるいはまた近年の高等教育改革の意味、といった諸点をも念頭に置きながら、今後もさらに研究を展開させていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 34 件)

白鳥 義彦、「ルイ・リアールとフランス第三共和政の高等教育改革」、『紀要』(神戸大学文学部)、査読無、第 41 号、2014、143-158

大前 敦巳、「1960 年代以降のフランスの新構想大学における教育刷新の展開」、『上越教育大学研究紀要』、査読無、第 33 巻、

2014、33-41

<http://hdl.handle.net/10513/2315>

白鳥 義彦、「フランスにおける『研究・高等教育拠点 (PRES)』」、『紀要』(神戸大学文学部)、査読無、第 40 号、2013、119-140

白鳥 義彦、「フランスにおけるバカロレア試験 近年における動向とともに」、『社会学雑誌』、査読無、第 30 号、2013、61-77

白鳥 義彦、「公開研究会報告：日仏大学改革の比較研究」、『日仏教育学会年報』、査読無、第 19 号、2013、87-88

白鳥 義彦、「海外寄稿紹介」、『社会学雑誌』、査読無、第 30 号、2013、221-222

大前 敦巳、「フランスの文科系大学学部における職業専門化の 2 つの展開 1960 年代以降の伝統的大学と新構想大学の関係に着目して」、『上越教育大学研究紀要』、査読無、第 32 巻、2013、75-84

<http://hdl.handle.net/10513/2106>

大前 敦巳、「フランス教育社会学における経験的研究の展開」、『日仏社会学学会年報』、査読有、第 24 号、2013、17-37

上垣 豊、「新制大学発足期の教育学とリベラルアーツ 旧制高校の文化と師範学校の文化」、『日仏教育学会年報』、査読無、第 19 号、2013、96-104

Ryuma Shineha, Masaki Nakamura, "Diversity in STS Communities: A Comparative Analysis of Topics", *East Asian Science, Technology, and Society*, 査読有, 7(1), 2013, 145-158

Kazuisa Fujimoto, "Globalization and Ethics for the Future", *Waseda Rilas Journal*, 査読無, No. 1, 2013, 165-170

Sayaka Oki, "Prisons, hôpitaux, population: l'Economie dans la Table de l'Académie des sciences de Paris", *Recueil d'études sur l'Encyclopédie et les Lumières*, 査読有, No.2, 2013, Société d'études sur l'Encyclopédie (『百科全書』・啓蒙研究論集、『百科全書』研究会)

http://home.hiroshima-u.ac.jp/soki/reel/2013_extraite_oki.pdf

隠岐 さや香、「写真で読む研究レポート 科学アカデミーの誕生」、『アステイオン』、査読無、第 78 号、2013、4-9

白鳥 義彦、「現代フランスにおける『結社』」、『紀要』(神戸大学文学部)、査読無、第 39 号、2012、19-37

白鳥 義彦、「公開研究会報告：日仏大学改革の比較研究」、『日仏教育学会年報』、査読無、第 18 号、2012、65-66

クリストフ・シャルル著、白鳥 義彦訳、「ヨーロッパ=アメリカの観点から見た、1945 年以降のフランス大学システムの変容」、『日仏教育学会年報』、査読無、第 18 号、2012、67-80

クリストフ・シャルル著、白鳥 義彦訳、「フランスにおける原子力 エリートに関する歴史学者によるいくつかの考察」、『科

- 学・社会・人間』、査読無、121号、2012、54-58
- シャルル・スーリエ著、白鳥 義彦訳、「フランスの原子力に関する考察のためのいくつかの要点」、『科学・社会・人間』、査読無、121号、2012、45-51
- 岡山 茂、「フクシマ以後の大学」、『科学・社会・人間』、査読無、121号、2012、40-45
- フレデリック・ネイラ著、岡山 茂訳、「大学の職業専門化という幻想」、『日仏教育学会年報』、査読無、第18号、2012、111-120
- ⑲ フレデリック・ネイラ著、岡山 茂訳、「フランスにおける原子力の経済的賭け金」、『科学・社会・人間』、査読無、121号、2012、51-54
- ⑳ 大前 敦巳、「P・ブルデューにおける高等教育の文化変動論 市場化に伴う正統的文化の自律性低下に着目して」、『日仏教育学会年報』、査読有、第21号、2012、45-65
- ㉑ 大前 敦巳、「フランスにおける大学の停滞と短期高等教育の拡大 文科系と第三次産業系分野の変容に着目して」、『上越教育大学研究紀要』、査読無、第31巻、2012、43-55
- <http://hdl.handle.net/10513/1420>
- ㉒ シャール・スーリエ著、大前 敦巳訳、「フランスにおける大学大衆化の2つの時期」、『日仏教育学会年報』、査読無、第18号、2012、96-102
- ㉓ 上垣 豊、「教養論争とリベラルアーツのディシプリン」、『日仏教育学会年報』、査読無、第18号、2012、132-136
- ㉔ 上垣 豊、「古典人文学による知的訓練 19世紀フランスにおける教養論争の側面」、『龍谷紀要』、査読無、第33巻第2号、2012、59-74
- ㉕ 早田幸政・望月太郎・齊藤貴浩・堀井祐介・島本英樹・中村征樹・渡辺達雄・林透、「東アジア圏の教育における大学間交流と質保証システム」、『大阪大学大学教育実践センター紀要』、査読無、第8号、2012、17-39
- ㉖ 藤本 一勇、「新しい技術社会と倫理」、『早稲田大学文学研究科紀要』、査読無、第57巻第3号、2012、53-65
- ㉗ 隠岐 さや香、「パスカルの生きた時代と科学のアカデミー」、『数学文化』、査読無、第18号、2012、44-57
- ㉘ 隠岐 さや香、「パリ王立科学アカデミーにみる近代科学と国家」(2012年度歴史学研究会大会報告 変革の扉を押し開くために：新自由主義への対抗構想と運動主体の形成) (近代史部会3・11後の歴史的地平：科学・技術、国家、社会)、『歴史学研究』、査読無、増刊(898号)2012、98-106
- ㉙ 岡山 茂、「大学蜂起論、リオータルとデリダによる」、『デュナミス』、査読無、第17号、2011、113-130
- ㉚ 中村 征樹、「研究不正への対応を超えて リサーチ・インテグリティ・アプローチとその含意」、『メタフシカ』、査読無、第

42号、2011、31-46

- ㉛ 隠岐 さや香、「『科学史』と『技術史』を越境する 17-19世紀数理諸科学史の可能性」(物質・技術文化からみた近代数理諸科学の展開(1660-1840)、2011年度年会報告)、『科学史研究』、査読無、第11期第50巻259号、2011、155-157
- ㉜ 隠岐 さや香、「十八世紀パリ王立科学アカデミーと「有用な科学」の追求：理想の学者像と道具的専門性の狭間で」、『化学史研究』、査読無、第38巻第3号、2011、167-168

[学会発表](計29件)

SHIRATORI Yoshihiko, “La politique de «projets» dans l’enseignement supérieur japonais et la hiérarchisation des universités”, *Les réformes universitaires en France, au Japon et au Brésil: pour un bilan critique comparé*, Colloque franco-japonais, ARESER Japon /ARESER France, 2013年12月13日, École normale supérieure, Paris, France

SHIRATORI Yoshihiko, “Les conséquences de la réforme des universités nationales japonaises de 2004”, *Dix ans après la réforme des universités nationales japonaises*, Journée d’études organisée par le Centre d’études japonaises – Antenne de Toulouse (INALCO, EA 1441), 2013年12月11日, Université de Toulouse le Mirail, Toulouse, France

白鳥 義彦、「『資本主義の新たな精神』を読む」第一部「訳者による解説」、「第三報告」、「資本主義の新たな精神と労働の変容」進化経済学会 第3回「制度と統治」研究部会、2013年12月7日、大学コンソーシアム大阪 キャンパスポート大阪4F

白鳥 義彦、「LRU(大学の自由と責任に関わる法律)とその影響」2013年度日仏教育学会、2013年11月24日、西九州大学

OKAYAMA Shigeru, “Les Humanités après Fukushima”, *Les réformes universitaires en France, au Japon et au Brésil: pour un bilan critique comparé*, Colloque franco-japonais, ARESER Japon /ARESER France, 2013年12月13日, École normale supérieure, Paris, France

OKAYAMA Shigeru, “L’évolution récente des universités japonaises privées face à l’autonomisation des universités nationales”, Journée d’études organisée par le Centre d’études japonaises – Antenne de Toulouse (INALCO, EA 1441), 2013年12月11日, Université de

Toulouse le Mirail, Toulouse, France
岡山 茂、「マラルメのイマジネーショナルな大学」、パリ第八大学文学部ジャン＝ニコラ・イルーズ教授のゼミナールで発表、2013年4月8日、パリ第八大学

OMAIE Atsumi, “Les politiques de création de « nouvelles universités » au Japon dans les années 1960, une comparaison avec le cas français”, Journée d'études organisée par le Centre d'études japonaises – Antenne de Toulouse (INALCO, EA 1441), 2013年12月11日, Université de Toulouse le Mirail, Toulouse, France ; *Les réformes universitaires en France, au Japon et au Brésil : pour un bilan critique comparé*, Colloque franco-japonais, ARESER Japon /ARESER France, 2013年12月13日, École normale supérieure, Paris, France

大前 敦巳、「1960年代の新構想大学創設に向けた政策形成の日仏比較」、2013年度日仏教育学会、2013年11月24日、西九州大学

大前 敦巳、「1960年代の大学改革における『中教審路線』の社会的位置 新構想大学創設に向けた政策形成に着目して」、第65回日本教育社会学会、2013年9月22日、埼玉大学

大前 敦巳、「『企業化する教育とグローバルイノベーション』コメント」、日仏会館クリスチャン・ラヴァル講演会、2013年5月10日、日仏会館

白鳥 義彦、「研究枠組みの紹介」、国際シンポジウム 日仏高等教育改革の比較研究(その2)、2013年3月7日、神戸大学

白鳥 義彦、「大学数の変遷から見た、日仏高等教育改革」、国際シンポジウム 日仏高等教育改革の比較研究(その2)、2013年3月7日、神戸大学

大前 敦巳、「日本の新構想大学と新自由主義高等教育改革の起源」、国際シンポジウム 日仏高等教育改革の比較研究(その2)、2013年3月7日、神戸大学

上垣 豊、「旧制高校の文化と師範学校の文化 新制大学発足期の教育改革議論をめぐって」、国際シンポジウム 日仏高等教育改革の比較研究(その2)、2013年3月7日、神戸大学

白鳥 義彦、「フランス高等教育の諸動向 研究・高等教育拠点(PRES)を中心として」、2012年度日仏教育学会創立30周年記念研究大会、2012年11月24日、早稲田大学

岡山 茂、「マラルメとデリダによる大学論」(第1回、2013年3月12日)、「ハムレットの大学」(第2回、3月21日)、「表象、ジャーナリズム、書物」(第3回、3月27日)、「日本の大学の歴史」(第4回、4月2日)、リモージュ大学招聘教授として

リモージュ大学人文学部社会学マスターコースで講義、2013年3月12日~2013年4月2日、リモージュ大学

岡山 茂、「条件なき大学のリベラルアーツ」、早稲田大学政治経済学部創設130周年シンポジウム「21世紀のリベラルアーツを考える」、2012年11月09日、早稲田大学

大前 敦巳、「パリ第八大学における教育刷新の展開 ディシプリン複合性・学際性に基づく再編」、2012年度日仏教育学会創立30周年記念研究大会、2012年11月24日、早稲田大学

大前 敦巳、「フランスの新構想大学 1968年以降における教育刷新の展開」、日本教育社会学会第64回大会、2012年10月27日~2012年12月28日、同志社大学

⑳大前 敦巳、「フランスの文科系大学学部における職業専門化の2つの展開 伝統的の大学と新構想大学の関係に着目して」、日本高等教育学会第15回大会、2012年6月2日~2012年6月3日、東京大学

㉑白鳥 義彦、「研究枠組みの紹介」、公開研究会 日仏大学改革の比較研究、2012年2月27日、神戸大学

㉒白鳥 義彦、「フランス社会と結社」、2011年度日仏教育学会、2011年11月13日、関西大学

㉓クリストフ・シャルル(白鳥 義彦訳)、「ヨーロッパ=アメリカの観点から見た、1945年以降のフランス大学システムの変容」、公開研究会 日仏大学改革の比較研究、2012年2月27日、神戸大学

㉔岡山 茂、「フクシマ以後の大学」、シンポジウム フクシマ以降の大学 日仏大学人の対話の試み、2012年2月24日、日仏会館

㉕フレデリック・ネイラ(岡山 茂訳)、「大学の職業化の幻想」、公開研究会 日仏大学改革の比較研究、2012年2月27日、神戸大学

㉖シャルル・スーリエ(大前 敦巳訳)、「フランスにおける大学大衆化の2つの時期 主体的大学から客体的大学へ?」、公開研究会 日仏大学改革の比較研究、2012年2月27日、神戸大学

㉗上垣 豊、「教養教育とリベラルアーツのディシプリン」、公開研究会 日仏大学改革の比較研究、2012年2月27日、神戸大学

㉘中村 征樹、「Les arts libéraux au 21ème siècle: une perspective japonaise」、公開研究会 日仏大学改革の比較研究、2012年2月27日、神戸大学

〔図書〕(計13件)

白鳥 義彦(研究代表者)、神戸大学、「日本およびフランスの高等教育改革に関する学際的比較研究」2011年度~2013年度科学研究費補助金 基盤研究(C)研究成果報告書、2014、253

岡山 茂、新評論、『ハムレットの大学』、2014、304
リュック・ボルトンスキー、エヴ・シャペロ著、三浦直希、海老塚明、川野英二、白鳥義彦、須田文明、立見淳哉訳、ナカニシヤ出版、『資本主義の新たな精神』(上・下) 2013、第三章、第四章、上巻 241-352 および 398-429
中村 征樹編、ナカニシヤ出版、『ポスト3・11の科学と政治』、2013、312
藤本 一勇、NTT出版、『情報のマテリアリズム』、2013、242
大前 敦巳、明石書店、第3章「フランスの学力向上策と個人化された学習支援の多様性」、志水宏吉・鈴木勇編『学力政策の比較社会学【国際編】PISAは各国に何をもたらしたか』、2012、79-98
大前 敦巳、教育開発研究所、新井郁夫編『カリキュラム開発の促進条件に関する研究』、2012、112-125
中村 征樹、晃洋書房、第1章「履修登録猶予期間の設定と単位の実質化に関する先進的取組」(1-17、共著) 第2章「『授業改善のためのアンケート』結果の教員による活用」(18-33、共著) 第5章「東アジア圏の教育における大学間交流と質保証システム」(81-116、共著) 早田幸政・望月太郎編著『大学のグローバル化と内部質保証 単位の実質化、授業改善、アウトカム評価』、2012、(いずれも『大阪大学大学教育実践センター紀要』所収論文の再録)
隠岐 さや香、東京大学出版会、「コンドルセの社会数学 科学と民主主義への夢想」、金森修編著『合理性の考古学 フランスの科学思想史』、2012、177-224
白鳥 義彦、世界思想社、「方法としての『社会』 E. デュルケム『社会学的方法の規準』」、井上俊・伊藤公雄編『社会学ペシックス別巻 社会学的思考』、2011、13-22
中村 征樹、原書房、「科学技術コミュニケーションの政策的振興」、桑原雅子・川野祐二編『[新通史]日本の科学技術』第3巻、2011、577-598
ダニエル・R. ヘッドリク著、塚原東吾・隠岐さや香訳、法政大学出版局、『情報時代の到来 「理性と革命の時代」における知識のテクノロジー』、2011、304
Sayaka Oki, Publications du Centre international d'étude du XVIIIe siècle, "L'utilité des sciences d'après les discours des secrétaires perpétuels de l'Académie royale des sciences de Paris au XVIIIe siècle", Franck Salaün et Jean-Pierre Schandeler (dir.) *Entre belles-lettres et disciplines. Les savoirs au XVIIIe siècle*, 2011, 77-88

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白鳥 義彦 (SHIRATORI, Yoshihiko)
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号：20319213

(2) 研究分担者

岡山 茂 (OKAYAMA, Shigeru)
早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号：10308132

大前 敦巳 (OMAE, Atsumi)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・教授
研究者番号：50262481

中村 征樹 (NAKAMURA, Masaki)
大阪大学・全学教育推進機構・准教授
研究者番号：90361667

藤本 一勇 (FUJIMOTO, Kazuisa)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：70318731

隠岐 さや香 (OKI, Sayaka)
広島大学・大学院総合科学研究科・准教授
研究者番号：60536879

上垣 豊 (UEGAKI, Yutaka)
龍谷大学・法学部・教授
研究者番号：80183747

(3) 連携研究者

()

研究者番号：